

取り組と成果に関する評価結果
 A：とても良い
 B：まあまあ良い
 C：普通
 D：良くない(要検討)

1. 本園の目指す幼児像

- ・遊びを通した総合的な活動の中で教師や友達との充実な関わりを持ちながら、心情・意欲・態度を育てる
- ・自然と豊かにかかわる体験を通し、考えたり言葉を伝え合いながら豊かな感性と人間関係の構築をはかる

2. 本年度の重点的に取り組む目標・表内縦書き赤字

3. 評価項目の達成および取り組み状況

重点目標	評価項目	評価指標及び評価結果					コメント		
		基準	取組指標	取組結果	基準	成果指標	成果結果	総括評価	
① しての自 む言気分 よ薬持の うに想 によるよ なるよを る伝く伝 保え聞え 育合いた のいたり 展をり相 開楽し手	自分の想いを伝えたり相手の気持ちを聞いたりする楽しさを味わうような場を提供する	4	サークルトークの場で、自分の考えを言ったり友達の考えを聞いたりするように促していく	3.2	4	自信をもって発言し、友達の発言にも興味をもって聞くようになった	3.2	A3.2	・言葉による伝え合いが育まれる取り組みの一つとして協同的学びを長期的に行った。一つの作品を作る工程の中で「これかして」「今、使っているから後から貸すね」といった言葉のやり取りや友達が作ったものをみて「いいアイデアだね」と相手を認めたり真似したりする姿が見られた。教師は子どもたちの思考力を引き伸ばすことを大切に考え、敢えて必要以上のことは言わず子どもたちの行動や発言をしっかりと見たり聞いたりするように心がけた。しかし、相手の話をじっくりと聞いたり、集中力の面では課題が残った。もっと遊びこみが必要だと感じている。
		3	幼児が興味をもてるような話をして、幼児との言葉のやりとりを楽しむ		3	短い時間なら教師の話に興味をもって聞くようになり、様々な想いを発言しようとするようになった			
		2	一人一人の幼児の想いをしっかり聞き、幼児理解を深める		2	友達に興味をもち、おしゃべりが弾むようになった			
		1	一人一人の幼児と楽しくおしゃべりをする		1	教師とおしゃべりをしたがるようになった			
② 工と苦 夫する手 るな物 気持でも 少しは食 べ保育よ うのう	栽培や収穫の体験から野菜への興味関心を持つようになる保育の工夫	4	健康のため食べ物を頂く感謝や、調理してくれる人への感謝が持てるような保育の工夫をしていく	2.7	4	苦手な野菜でも食べてみようとする気持ちが育ってきたり、残すことをもたないと感じたりする気持ちも育ってきた	3.2	B3	・年長児が育てたい野菜を自分たちで買いに行ったことから興味や関心が増し、水やりや観察をよくするようになった。それを見ていた他学年も影響を受け、水やりをしたり収穫の手伝いをしたりと園全体の活動に膨らんでいった。収穫前に小さい友達が触って地面に落ちた実を発見すると、貼り紙を作ったりかかしを作ることを子どもたちが提案したりし、野菜への関心が深まっていった。収穫した野菜は「おやさいバイキング」を開き、みんなで食べてみる活動をした。満3歳児は別館ということもあり、取り組み指標への結びつきが薄かったことが反省で上がった。しかし、野菜嫌いの子でも「少し食べてみたい」という思いに多くの子が繋がったことは良い成果としてみている。
		3	収穫した野菜を調理してもらって、美味しさに気付くよう促していく		3	野菜に興味関心を示し、絵を描いてみたり、給食の中の野菜についておしゃべりが弾むようになったりした			
		2	野菜を収穫する喜びを味わい、野菜に対する興味関心をもてるような関わりや言葉かけをする		2	草抜きや水やりなどの世話を楽しんでするようになった			
		1	野菜の苗を植え、育てる活動をする		1	野菜の生長を楽しみにするようになった			
③ 保育の手 を思いや る気持を 育む	思いやりの気持ちを育む保育の展開	4	幼児一人一人の良さを認め、大切なクラスの一員であることを意識できるような関わりをもっていく 幼児一人一人の気持ちを受け入れながら、教師の願いもしっかり伝えていく(年少組)	3	1	友達の良さを認められるようになり、トラブルになっても自分達で解決しようとするようになった 友達と一緒に居る安心感や、居心地の良さを十分に感じられるようになった(年少組)	2.9	B3	・思いやりを育む保育ではふわふわ言葉やちくちく言葉にはどんなものがあるのかを考える時間や、心の中を色で例えるなどしてイメージが湧きやすいようにした。また、協同的学びを長期にわたり継続していく中で自然と子どもたちの中で思いやりの気持ちが育まれていく姿が感じられた。子どもたちで解決できそうなことは見守り、学年によっては思いを教師が代弁したりしながら保育をおこなった。また、おともだちの”いいところ探し”をクラスで行った。取り組みは行うだけではなく進捗状況を確認したり見直しが大切だと感じた。また、トラブルが起きにくい環境になっているかという教師の視点も大切であることを話し合うことができた。
		3	トラブルなどの後、ふわふわ言葉とちくちく言葉をイメージしながら振り返りをする		1	トラブルの後の振り返りの時、相手の気持ちにイメージできるようになった			
		2	トラブルの際、お互いの気持ちを丁寧に聞き取り知らせていく		1	自分が言われてうれしい言葉や嫌な言葉がイメージできるようになった			
		1	ふわふわ言葉とちくちく言葉のイメージを知らせる		1	トラブルの際、嫌な気持ちを相手に伝えられるようになった			

○ 総合的な評価結果

評価	理由
B	今年度は学校評価における公開保育を行い、重点目標に向かい進むことが出来た。皆さんに自園の保育をみていただき、良いところや改善点が明確になった。どの重点目標においても「環境」がとても大切であり、子どもたちが自分で「やりたい！」と思った時に、材料や遊びたいものが手にとりやすい位置にあるかなど見直したり棚をコーナー遊びに利用し、遊び込みができる空間を考え実践したりした。教室内は子どもたちの気持ちが落ち着くように unnecessary な壁面は失くし、出来るだけ心揺さぶられる自然物などを多く飾るようにした。まだまだ改善点が多く今後も継続や見直しが必要である。

○ 今後、取り組む重点的課題

	課題	具体的な取り組み方法
1	室内環境の見直し	子どもたちが自分のやりたいことが自由に出来、遊びに夢中になれるようにする
2	学期ごとに環境を見直す	子どもの成長と共に環境も変化させていく
3	子ども主体の保育	協同的学びを深め、子どもたちの「やってみたい」を大切にする

○ 学校関係者評価委員会の評価 委員会実施日 令和 7年 3月 18日

重点目標の達成に向かい、先生方と子どもたちが共に工夫を凝らしながら取り組まれていることが伝わってまいりました。子どもたちが取り組む姿を必要以上の手出しや口出しをせず温かく見守ってくださる環境の中で、子どもたちの主体性が育まれていくものと感じました。

次年度の課題を意識しより良い環境づくりを行いながらより一層、素晴らしい園となることを願っております。

学校関係者評価委員

学校関係者評価委員

学校関係者評価委員